

2020年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人横浜メンタルサービスネットワーク

1 事業の成果

多くの会員に20年続けて支えられたことを感謝しているが、設立20年目は変化の一年だった。

年度初めの総会で、第2ステージへと向かう1年であることを確認してスタートし、障がいや教育、制度の狭間にいる子ども・若者支援に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大予防をこころがけつつ、できるだけ運営を続けることにした。1カ月遅れではあったが、プレジョブスクールを6月にオープンし、Irodoriの活動も継続した。しかし、新規事業、研修事業については、緊急事態宣言の発出などの影響で思うように企画できなかった。それでも年度後半より、理事を中心にオンライン研修の企画をし、成果を得ることが出来た。

また、活動の変更を機に予定した事務所・活動場所の移転は、計画通り8月に完了した。しかし、当初計画していたシェアハウス事業については、移転先では設備不足であるため、当面断念することにした。

一方、新型コロナウイルス・緊急事態宣言などの影響で、収入の落ち込みもあったため、持続化給付金などの助成金を申請した。また、職員についても自宅待機をお願いするとともに、雇用調整金を活用するなどして、スタッフの雇用継続に努めた。その後、1人のスタッフが産休・育休に入ったが、特にスタッフの補充はしないで乗り切ることができた。

また、就労支援では、職場実習の企業がなくなって困っていたところ、神奈川子ども未来ファンドより、11月～21年9月の11カ月間で、約200万円のコロナ緊急助成金を受けることができた。「駄菓子屋カフェで職業体験」の企画を運営することができた。

以上、社会的にも厳しい状況がある年だったが、移転も含め、法人の活動の柱がくずれることなく、順調に運営できた1年になった。

2 事業内容

① 精神障がい者等の社会参加を促進する事業

ア. (助成金事業) 訪問型職場適応援助者事業 (ジョブコーチ)

- ・ **内 容** 神奈川労働局助成金事業、高齢・障害者独立行政法人神奈川障害者職業センターを窓口としての支援を実施
就業3～8年の方の再支援の依頼が目立った。年齢を重ねる、担当者が変わる、会社の体制が変わるなどの変化への対応にジョブコーチが必要であることが分かった。一方、新規の支援が減っている。職業訓練を終了したことが大きい、別途企業内ジョブコーチなどの普及も大きい。
- ・ **日 時** 適宜
- ・ **場 所** 各企業
- ・ **受益対象者** 精神障がい者等 20人(新規3人、再支援6人、継続支援11人)
- ・ **従事者人員** 1人
- ・ **支出金額** 1,930,703円

イ. 「かながわプレジョブスクール」

- ・ **内 容** 助成金終了に伴う自立の年度になった。結果的には常勤スタッフの人件費分が赤字となった。今後の課題である。一方、2年制を初導入した。1年だけではフォローしきれなかった課題にも対応し、全員が次のステップにつながったことは成果である。また、6人の1年生のうち、5人が2年制?を選択する結果となるなど、2年で一区切りとした結果は大きい。
- ・ **日 時** 6月より3月までの10カ月
- ・ **場 所** 事務所 他
- ・ **受益対象者** 9人

- ・ 従事者人員 2～4人
- ・ 支出金額 2,490,566円

ウ. 中高生の放課後支援 Irodori、こどもの活動

- ・ 内 容 これまで通りの活動を続けてきた。新しい参加者も何人か登録しているが、新型コロナウイルスで慎重になる家族もある。開催し続けることが大事である。月1回の昼食会は感染予防をしつつ開催した。コミュニケーションゲームを取り入れ、”楽しい”雰囲気を味わえた。3月にはレクリエーションで観音崎に行ったことが、息抜きの時間になった。またこどもゆめ基金からの助成金で「親子で森林セラピー」を企画した。秦野市の協力もあり、8組の親子と森林をバックに良い時間を過ごせた。
- ・ 日 時 週3回(火、木、金)16:00～18:30、第3土曜日 10:00～13:00
春・夏・冬休みは日中活動、11/3;森林セラピー
- ・ 場 所 事務所 他
- ・ 受益対象者 中学生、高校生、小学生低学年・親子
- ・ 従事者人員 3人、10人
- ・ 支出金額 1,127,773円

エ. 就労支援フォローアップ

- ・ 内 容 職場適応SST/[PDDの会]、[男子会]、フリースペース OBOG 会の開催をすることが出来なかったが、移転の案内はがきを手に新事務所を訪れてくれた。
- ・ 日 時 随時 各プログラム 月1回
- ・ 場 所 事務所 他
- ・ 従事者人員 各回3人程度
- ・ 受益対象者 精神障がい者 トライ、JC利用者 多数
- ・ 支出金額 0円

オ. 駄菓子屋カフェ Irodori

- ・ 内 容 神奈川県子ども未来ファンドからの助成金でスタートした駄菓子屋とカフェを使った職業体験の企画。また買い物に来る子どもにとっては居場所となった。また、カフェ利用者との交流プログラムなどの企画も計画中である。3月には、高校生の職業体験グロウを実施することができた。
- ・ 日 時 火曜日から金曜日(週4日)、第1・3土曜日
- ・ 場 所 事務所 他
- ・ 従事者人員 1～2人
- ・ 受益対象者 高校生以上の若者
- ・ 支出金額 1,148,740円

カ. 精神障がい者等の家族支援を行った

- ・ 内 容 うつ病の家族の会「ふらっと」の活動を応援、定例会への参加等
- ・ 日 時 毎月1回の定例会 全8回(内、研修会1回)
- ・ 場 所 ウィリング横浜
- ・ 従事者人員 2人
- ・ 受益対象者 うつ病の家族 5～6人
- ・ 支出金額 0円

② 子育て・不登校・精神障がい・介護疲れ等への相談事業

- ・ 内 容 就労している精神障がい者への相談等の実施
ジョブコーチ支援が導入できない職場での職場外の相談
- ・ 日 時 適宜

- ・ 場 所 事務所
- ・ 従事者人員 1人
- ・ 受益対象者 上記、内容に含まれる人
- ・ 支出金額 0円

③ 精神保健福祉に関する調査研究等の事業

ア. 情報誌の発行

- ・ 内 容 精神保健福祉に関する情報を中心にした情報誌を年4回発行した。
- ・ 日 時 4月 7月 10月 1月 (4回発行)
- ・ 場 所 事務所
- ・ 従事者人員 4人(編集委員)
- ・ 受益対象者 会員、関心がある人
- ・ 支出金額 192,686円

④ 援助者等への相談、研修事業

ア. 定例研修会(精神保健福祉研修会)を開催した

- ・ 内 容 支援者のスキルアップを目的とした精神保健福祉研修会を開催
テーマ:「ひきこもり」だが、新型コロナウイルス感染の影響で研修室
が使用できず、4回開催にとどまった。
- ・ 日 時 毎月/全10回のうち、4回開催
- ・ 場 所 ウィリング横浜
- ・ 従事者人員 事務局
- ・ 受益対象者 地域関係機関職員、当事者、関心がある人 毎月約10人程度出席
- ・ 支出金額 10,600円

イ. スキルアップ研修会を開催した

- ・ 内 容 支援者としてのスキルアップ講座をオンライン開催した
CBT基本の”き”3回シリーズ
SSTブラッシュアップ講座 全7回
その他、地域スタッフへの相談研修
- ・ 日 時 適宜
- ・ 場 所 オンライン
- ・ 従事者人員 講師3人、事務局
- ・ 受益対象者 地域関係機関職員、関心がある人
- ・ 支出金額 75,576円

⑤ 関連する団体への助言及び援助事業

- ・ 内 容 関係団体に対して、その依頼に応じて助言及び援助を行う。
ア. 横浜市立横浜総合高校「ようこそカフェ」に相談担当として参加した。
- ・ 日 時 適宜
- ・ 場 所 各施設
- ・ 受益対象者 関係団体
- ・ 支出金額 0円

賛助会員:「SST普及協会」 賛助会員:「日本職業リハビリテーション学会」

団体会員:「横浜市精神障がい者就労支援事業会」 会員:「かながわ精神障害者就労支援事業所の会」
「コンボ」、笹下・東松本町内会、社会保険協会